

高等学校における薬害教育について

厚生労働省 医薬局総務課

医薬品副作用被害対策室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

薬害に関する授業例について【1】

◆実施校：山梨県立甲府城西高等学校〈山梨県〉

高校2年生・公共

「日本経済の特質と
国民生活－5
消費者問題」

【単元（日本経済の特質と国民生活－5 消費者問題）の目標】

- 消費者行政が保護から自立へと変化していることについて理解する
- 消費者の権利と責任について、自由と義務の観点から整理し、適切に表現する
- よりよい社会の実現を視野に、消費者問題について学習したことを社会生活に活かそうとする

【本時の目標】

- 薬害問題を消費者主権の視点から考察し、よりよい社会の実現に向けた公正な判断力を養う
(生徒が薬害の一因に情報の非対称性があることを導き出し、消費者の4つの権利（安全である権利、知らされる権利、選択できる権利、意見を聞いてもらう権利）を前提に、消費者主権によるよりよい社会の実現に向けて自分の考えを述べる)

活動① 「知る」

「薬害を学ぼう」及び視聴覚教材を見て、薬害問題を理解する。

- 「薬害」とはなにか
- 「薬害」はなぜ起こったのか

活動② 「比べる」

なぜ、薬害問題が消費者問題のひとつに位置づけられているのか考察する。

(ワークシートを活用)

- そもそも、消費者問題はなぜ起こったのかを確認する（「消費者の4つの権利」）
- 消費者の4つの権利をとおして、薬害が起こらない社会を作るにはどうしたらよいか？

活動③ 「提案する」

薬害を起こさない社会をめざして、「安全なクスリを、安心して使うには」をテーマとして、グループワークを通じ、消費者のとりべき行動を提案する。
(グループごとにスライドを作成し発表)

- クスリの情報を、どのように知るのか
- 自分にあったクスリを、どのように選ぶ
- クスリについて、感じたことをどのように伝えるか

活動④ 「結論」

グループで出した結論をもとに、自分の意見をまとめる。

- 薬害のない社会をめざした、消費者主権をどのように確立するか



薬害に関する授業例について【1】

◆実施校：山梨県立甲府城西高等学校〈山梨県〉

ワークシート

薬害問題と消費者主権

2年4組 番 氏名 _____

Goal! 薬害のない社会をめざした、消費者主権のあり方を考案できる。

活動① 知る…テキスト「薬害を学ぼう」と関連動画から、薬害問題を理解する。

「薬害」とは何か？

学ぶ
前に

答え
クスリの単なる副作用ではなく、身体に好ましくない働きが生じ、健康被害が出ること。など

被害者の声を聞いて…

被害者が語ったこと

被害者の声から感じたこと

薬害はなぜ起こった？

経済成長などの利益追求を優先し、消費者(患者)の安全を守るリスク管理を行政や製薬会社が怠ったから。など

活動② 比べる…なぜ、薬害問題が消費者問題のひとつに位置付けられているのか？
そもそも、消費者問題はなぜ起こった？

情報の非対称性、依存効果、デモンストレーション効果など。

確認 米国のケネディ大統領による、「消費者の4つの権利」とは何であったか？



- ① 安全である 権利 ② 知らされる 権利
③ 選択できる 権利 ④ 意見を聞いてもらう 権利

消費者の4つの権利をとおして、薬害が起こらない社会をつくるには？

活動③ 提案する…薬害を起こさない社会をめざして、消費者のとるべき行動を提案しよう！

自分にとってクスリはどのようなモノ…？

グループワーク ～安全なクスリを、安心して使うには？～

次の3つの間に、PowerPointで1枚ずつスライドを作成して、提案しよう！

① まずは、みんなで議論して答えを導き出す → ② 役割分担を決める → ③ スライド3枚のみで完成。

※1 PCでクスリの知識や身近な消費者問題について調べてみる ※2 自分たちで考えたオリジナルの方法でももちろん可

Q1 クスリの情報を、どのように知るのか？ すでに実践していること、これからやってみよう方法など

Q2 自分にあったクスリを、どのように選ぶ？ どの薬を購入する？処方薬をどのように使う？など

Q3 クスリについて、感じたことをどのように伝える？意見する？相談する？

活動④ 結論…グループで出した意見をもとに、自分の意見をまとめよう。

薬害のない社会をめざした、消費者主権をどのように確立する？

活動⑤ チェック…薬害問題・消費者問題を学んで、わかったこと・わからなかったことを書こう。

わかったこと

わからなかったこと(新しい疑問)

薬害に関する授業例について【1】

◆実施校：山梨県立甲府城西高等学校〈山梨県〉

グループワークで生徒が作成したスライド（例）

紙や電話やネットでクスリを知ろう！

★薬の相談窓口

平日の9時から17時に対応してもらえる

★医師からもらう処方箋

薬の服用時間、量などが書いてある

★お薬手帳

薬の飲み合わせ、過去の服用歴などがわかる

★電子処方箋

★近くの薬局に行く



1

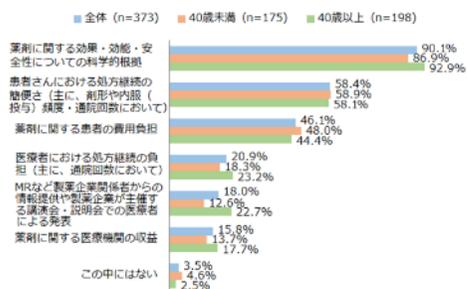
お医者さんと
意見交換？

少しでも気になる
ことがあったら
すぐに聞く！！



3

クスリを選ぶ基準は科学根拠にある



計7項目について複数選択で尋ねた結果、最も多かったのは「薬剤に関する効果・効能・安全性についての科学的根拠」で約9割に上った。

科学根拠で選ぶ人が一番多い！！

薬剤選択で重視、トップは「科学的根拠」◆Vol.11 | m3.com

2

安全なクスリを、安心して使うには…？

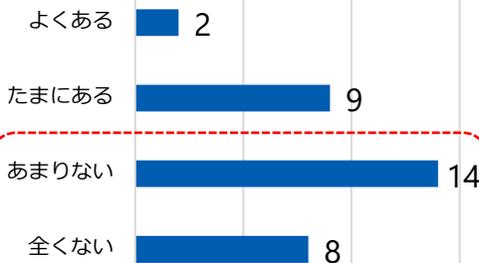
リスクを意識して、正しい情報を得て、気になったらすぐに相談することを実践する！

4

生徒の「薬害」への意識① 授業実施前（山梨県立甲府城西高等学校）

問1 「薬害」に関するニュースを目にしたことはありますか

n=33



問2 「薬害」について、あなたはどの程度知っていますか

n=33

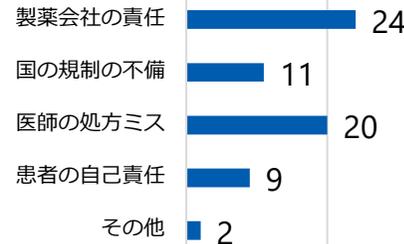


問3 「薬害」として思いつく事例を挙げてください（自由記述）

- ・紅麹（3件）
- ・薬害エイズ事件（3件）
- ・クロロキン事件
- ・陣痛促進剤の使用による母親の死亡
- ・薬を飲んだら眠くなった
- ・薬の飲み合わせが悪くて病気が悪化する
- ・違法なサプリ
- ・異物混入、後遺症
- ・薬物乱用、農薬による健康被害、市販薬の多量接種
- ・副作用
- ・わからない／知らない

問4 「薬害」の原因として、何が考えられますか（2つまで選択）

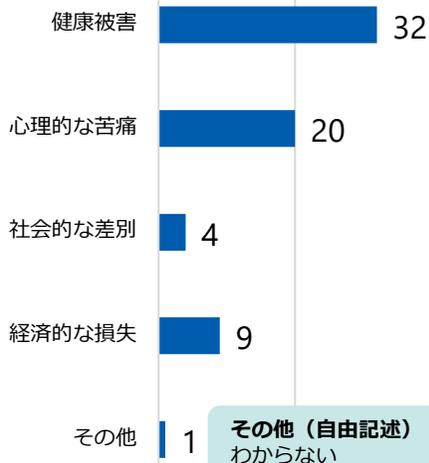
n=66



その他（自由記述）
医師の診断ミス／オーバードーズ

問5 「薬害」によって、どのような被害が起こると思いますか（2つまで選択）

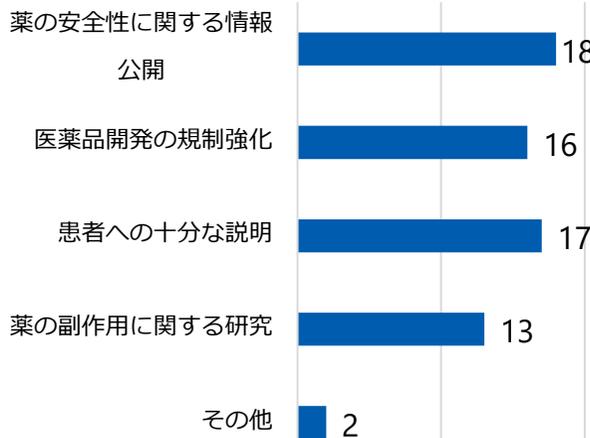
n=66



その他（自由記述）
わからない

問6 「薬害」を防ぐためには、どのようなことが大切だと思いますか（2つまで選択）

n=66



その他（自由記述）
医師の慎重な診断／わからない

問7 薬を服用する際、あなたはどのようなことに注意していますか（自由記述）

<用法・用量>

- ・説明書を読み正しい服用ができるようにする
- ・服用する量。多数の薬を服用する時
- ・服用量の記述を見るようにしている
- ・頻度や使い方を正しく守る。取扱説明書をよく読む。
- ・何錠服用するか
- ・薬の飲み合わせが大丈夫か
- ・空腹時に飲まない、一日に2回以上飲むときは時間を空ける
- ・1日何個と決められているからしっかり守る
- ・飲む回数、量
- ・服用回数や頻度をよく見る
- ・使用量や方法の説明をよく読んでいます。飲む時間を開けたりする

<効能・効果、副作用情報>

- ・効果と副作用に注意している
- ・副作用をきちんと理解してから服用する
- ・副作用を気にする
- ・自分の症状にきちんと効くか調べる
- ・自分にあっているかどうか
- ・飲んだ後の副作用や薬を飲む量など
- ・副作用をみる
- ・効果や、副作用。一緒に服用してはいけない成分

<医師の指示、説明書の確認>

- ・医師から言われた通りの時間や数を飲むようにしている
- ・医師に言われた服用の仕方を守る
- ・医師の指示を聞いて用法用量を守って服用している
- ・医師に言われた通りに飲むこと
- ・お医者さんの説明をしっかりと聞く
- ・医者のお話を聞く
- ・市販薬を購入する際は、必ずパッケージの裏面を確認し、説明書をよく読む。病院の先生の説明をよく聞く。
- ・説明をしっかりと聞いて、風邪を引いてる時はしっかりと薬を飲むこと。
- ・説明をしっかりと服用する前に読んでいます
- ・説明書をしっかりと読んだり、注意しなければいけないことをちゃんと読む。
- ・本当大丈夫か調べてから買うようにする。
- ・副作用にどのようなものがあるか確認する。

<その他>

- ・あまり気を付けてない
- ・知らない

生徒の「薬害」への意識② - 1

授業実施後（山梨県立甲府城西高等学校）

問1 今回の授業で「薬害」について新たに知ったことは何ですか
(自由記述)

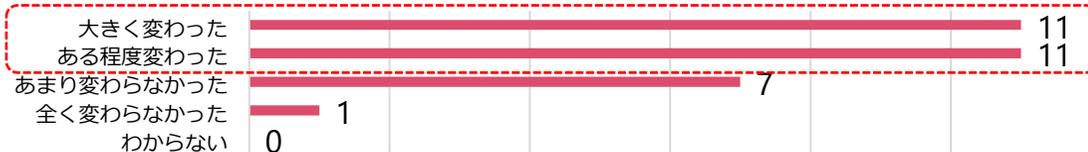
<薬害とは>

- ・薬害は今までにたくさんあって多くの被害者がいること
- ・薬害によって苦しんでいる人が沢山いること
- ・薬の使い方を間違えると副作用で今後の人生が変わることを知った
- ・薬害の影響のデカさ
- ・薬害は、医薬品等による健康被害が社会問題となるまで規模が広がったもの。薬を安心安全に使うには、不明な点薬剤師に相談すること、各医薬品の添付文書を読み、理解することが大切。
- ・単なる副作用ではないこと。薬害で今まで通り生活できなくなったり、亡くなってしまった人がいること。
- ・海外で対応された薬でも日本ではまだ使用が認められているものがあり、被害者が増えてしまったという事例
- ・薬害とは何か。薬害は何が原因で起こるか。
- ・薬害はたくさんある。困ったらすぐに相談する。
- ・薬害とはどういうものなのか知れた
- ・薬害とは何か知った
- ・薬害とは国や施設がルールに従えば防ぐことができることが多い事件が多いことがわかった
- ・薬害とは不適切な薬の使用による健康被害などのことだと知った。
- ・薬害は、薬の使用の仕方がわるいと起こる副作用的なものだとわかった。
- ・副作用によって体に異変が起きてしまったりしてしまうこと
- ・可哀想
- ・薬害のほとんどは事故であると知った
- ・いつ自分に襲い掛かるかわからない怖い害
- ・身体に影響をおよぼす怖い薬

<教訓と対応>

- ・製薬会社や医療機関の責任だけでなく、自分自身の判断のあまさや選択の正しさをも問われる問題だということ。
- ・薬害を防ぐためには医者や薬剤師さんの説明だったり、ネットで薬の成分を検索して自分に合った薬を選ぶことが大切だと知ることが出来た。
- ・医者側だけでなく消費者側にも責任はあること
- ・消費者と医師や薬剤師が正しい情報の交換ができることが大切だということ
- ・消費者主権があること
- ・情報の伝達が遅れたことによって薬害が起こったと初めて知った
- ・情報共有が大切だということがわかった
- ・薬に対して知識をしっかりと身につけておく
- ・薬について検索できるサイトがあること
- ・薬害には副作用があるとわかった。インターネットでは薬を調べられるサイトがあると分かり活用したいと思った。
- ・医者以外に薬剤師がいることをしった

問2 授業を受ける前と後で、「薬害」に対するあなたの考えは変わりましたか n=30



問3 問2で「大きく変わった」「ある程度変わった」と回答した方にお聞きします。具体的にどのように考えが変わりましたか（自由記述）

<薬害に対する意識>

- ・薬害とは薬を飲むことで起こる副作用で仕方が無いものだと思っていたが不適切な薬の使用による健康被害だと知り、自分で薬の情報を調べたり注意しながら使ったりすることが大切だと授業を通し思った。
- ・薬害の種類はそんなにないと思っていたけど、たくさんあってびっくりした
- ・より身近にある事が分かった
- ・薬害についての知識が身についた
- ・知らなかったことを知ることができた
- ・薬にはどのような危険性があるか

<薬害の発生原因への意識>

- ・薬害は医師、国も関わっている
- ・薬害は製造している方の不手際や隠蔽ばかりだと思っていたが消費者の方にも責任があるという考えになった
- ・今までは薬害問題を起こした企業側に全ての責任があると思っていたけれど、被害者側にも問題に巻き込まれないための注意をする必要があると思った。情報の信憑性を図ったり、周りに相談したりと、自分のためにできることをしていかなければいけない。
- ・医師側などの人達だけに責任があると思っていたけれど私たちのような消費者側にも消費する責任があると思いました

<薬害による個人や社会に対する影響への意識>

- ・薬害は薬の副反応だけではなく、医薬品による健康被害が社会問題となるまで規模が広がったものだということが分かった。薬害の被害者の話を聞き、今後同じようなことがないようにするにはどうしたらいいか考えることが出来た。
- ・薬害の怖さ

<薬害を防ぐ方策への意識>

- ・薬害は意識次第で減らすことが出来る
- ・消費者にも常に意識をしながら生活すれば防げるということがわかった
- ・薬害とは仕方なく起こることだと思っていたが防ぐことのできる出来事と知った
- ・自分が使用する薬についてももっと理解して服用しようと思った。処方された薬や薬局で売っている薬も使い方や誤ると危険なものになると改めてわかった。
- ・学ぶ前よりも薬剤師さんなどの方に聞いていこうとあらためて思うことが出来た
- ・薬には飲み合わせがあるので成分を調べたりして飲み合わせに注意していきたいと思った
- ・薬害にあつた人の話を聞いて、今まで自分は何も薬害について知らなかったけど、二度と起こして欲しくないという思いを私達も伝えていくために、薬の知識を身につけたり、情報を得ないといけないと考えが変わった。
- ・薬害について知って、成分などを確認することが大切だとも思った
- ・薬害のない社会を目指すことができると思えるようになった。

生徒の「薬害」への意識② - 2 授業実施後（山梨県立甲府城西高等学校）

問4 薬害が起こらない社会にするためには、どのようなことが必要だと考えますか
（自由記述）

<国民・消費者として>

- ・一人一人が使う薬についてよく知ること
- ・医師や薬剤師の注意も必要だが薬を使用する一人一人の確認が大切
- ・一人一人の意識が大切
- ・消費者一人一人が薬の副作用や効能を良く知り、分からないことがあったら医者・薬剤師などに相談する
- ・不安に思うことがあるのであれば、医療機関に全てを頼るのではなく、まずは自分で調べるところから始める。様々な情報を取捨選択し、疑問があれば医師や薬剤師、くすりの相談窓口などに相談をする。このように自分から行動できる力が必要だと思う。
- ・薬の安全性についての知識を身につけたり、副作用があることに気をつけて薬を正しく使用する。PMDAなどのホームページで薬について理解するために調べたりする。
- ・薬害についてもっと消費者が知っていくことが必要
- ・どのような薬なのか副作用はどうかなど薬剤師さんやお医者さんに聞くことが大切
- ・自分での正しい情報収集や不安なことを医者、薬剤師さんなどに相談すること。
- ・医者や薬剤師さんに自分が疑問に思ったことや不安に思ったことを伝えることや、実際に薬を使ってみてその症状を伝えることが必要だと思う。
- ・1人1人が薬の安全性を見直して意識していくことが薬害を起こさない1番のポイントだと思う
- ・1人1人が薬に対しての知識をつける
- ・消費者側が色々な事を知ること、知る機会を得ること
- ・薬害について関心を持つこと
- ・しっかりと確認する
- ・提供する側は審査を十分にいき、使用する側も薬の危険性を理解し、正確な知識を持つことが必要。
- ・市販薬を服用する際には、説明書をよく読み、分からない点や不安な点、聞きたいことがあれば医師、薬剤師に相談すること。被害者の話を聞き、今後同じようなことを繰り返さないように注意する。
- ・しっかり聞いて調べること
- ・薬の使い方を間違えないこと
- ・消費者主権を駆使して製造者との信頼で繋がること
- ・情報の共有をする
- ・国の薬に対する姿勢を改めて、自分達の知識をつける
- ・どの成分が含まれているかみる
- ・成分をしっかり確認し用量などを確認しながら使うことが大切

<製薬会社として>

- ・製造側は副作用などの情報の開示をしたり消費者は成分をしっかりと確認することが大事

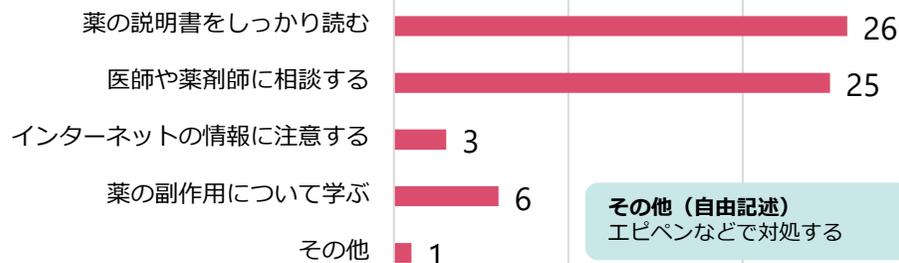
<医療従事者として>

- ・専門家に聞きやすい環境を作る
- ・医療の人たちがしっかりとすることなど
- ・薬品について詳しいひとが何度も確認する

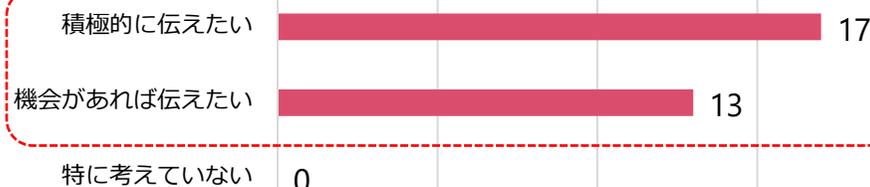
<国として>

- ・被害者救済や再発防止体制を確立する
- ・国が管理する

問5 消費者として、薬を安全に使うために、どのようなことに注意すべきだと考えますか（2つまで選択可） n=61



問6 授業で学んだことを、周りの人に伝えたいと思いますか n=30



薬害に関する授業例について【2】

◆実施校：静岡県立清水南高等学校〈静岡県〉 高校2年生・公共

【目標】

- 薬害の経緯を学び、その発生・拡大原因を理解している（知識・技能）
- 薬害を起こさない、被害を拡大させないために私たちがすべきことを考え表現している（思考・判断・表現）
- 薬害と向き合える社会を作るために私たち一人ひとりにできることを主体的に考えている（主体的態度）

① 導入

「薬害とは何か？なぜ起きてしまったのか？」

- 薬局等で買える薬の例を見る
- 「薬の副作用として何があるか」隣の人と意見を共有する
- 「薬害」と聞いて知っていることやイメージをワークシートに記入
- キノホルム（整腸剤）を飲んでスモン病を発症した方のエピソードを読み「この方の事例は副作用か」を考える

② 展開

薬害に対して、社会はどう対処すべき？被害を止めるには？

- スモンを発症した方（静岡出身の方）の詳細なエピソードを読み「なぜ薬害は起き、拡大してしまった？その原因と対策を考えよう」意見交換しロイロノート(※)で意見提出
- そもそも薬は、誰の/どのようなルールの下に作られ、誰によって流通・販売され、患者等によって使用されるのか、背景やルートを学ぶ
- 「もし薬害が起きるとすれば、それはどこに問題があった可能性があるか」隣の人と意見を共有する
- 近年起きた薬害（HIV・C型肝炎等）への政府・企業の対応や当事者らの闘いについて、資料や動画で学ぶ。薬の危険性を事前に察知し規制をかけたり、症例が出たときにすぐ対応することの重要性と難しさを理解する
- 「薬害を二度と起こさせない、拡大させないために、誰がどう対処すべき？どんな取組が必要？」自分の考えをワークシートに記入
- 「多くの人の命や健康が守れる、革新的な新薬が開発された。その安全性に不確かな部分（0.1%）があった場合、国は国内での販売・使用を許可すべきか？許可すべきではない？」資料を見ながら隣の人と意見を共有し、ロイロノートで意見を提出

③ まとめ

薬害と向き合える社会をつくるために、私たちにできることは？

- 最初に見たスモン病の事例に立ち戻り、薬害の苦しみは身体的なものだけでなく、精神的・社会的なものも含むことに注目
- 「もし薬害で苦しむ方が身近にいることが分かったとしたら、その人のためにあなた（や周りの人、会社や自治体）にはどんなことができる？」隣の人と意見交換
- ワークシートに問に対する自分の考えを記入

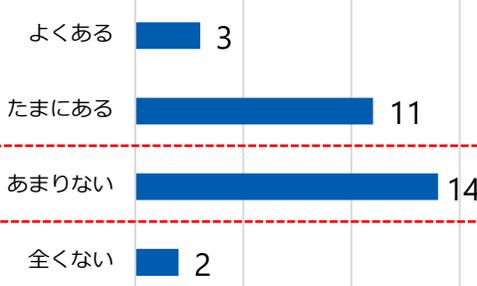


(※) 1人1台端末において、デジタルノートや提出物管理等の様々な機能を利用できる授業支援クラウドツール。

生徒の「薬害」への意識① 授業実施前（静岡県立清水南高等学校）

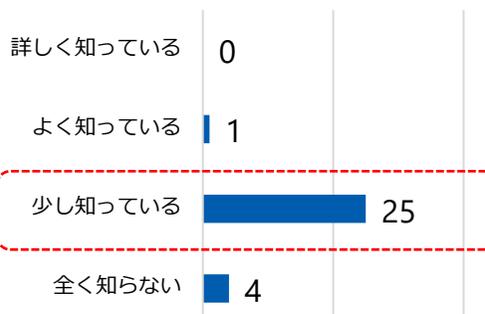
問1 「薬害」に関するニュースを目にしたことはありますか

n=30



問2 「薬害」について、あなたはどの程度知っていますか

n=33

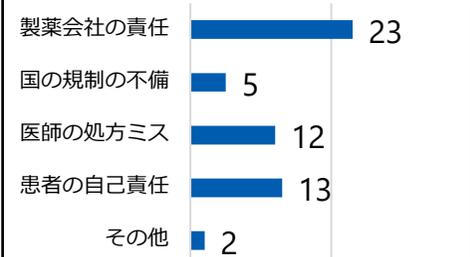


問3 「薬害」として思いつく事例を挙げてください（自由記述）

- ・紅麹（9件）
- ・オーバードーズ（5件）
- ・眠くなる（5件）
- ・副作用（4件）
- ・ワクチン（3件）
- ・腹痛（2件）
- ・肌が荒れる（2件）
- ・薬害エイズ事件
- ・間違った薬を処方
- ・薬にウイルスが混入
- ・薬の飲み合わせ
- ・薬の副作用による身体障害
- ・腹痛薬を飲んだら頭痛がする
- ・別の病気を発症する
- ・農作物

問4 「薬害」の原因として、何が考えられますか（2つまで選択）

n=55



その他（自由記述）
薬の成分／化学変化や化学反応

問5 「薬害」によって、どのような被害が起こると思いますか（2つまで選択）

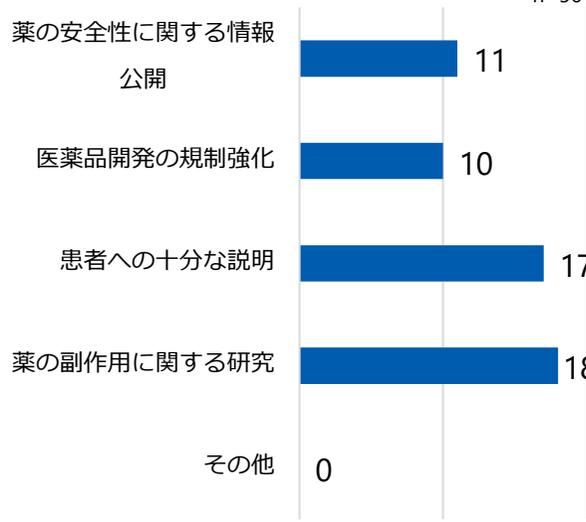
n=58



その他（自由記述）
全部

問6 「薬害」を防ぐためには、どのようなことが大切だと思いますか（2つまで選択）

n=56



問7 薬を服用する際、あなたはどのようなことに注意していますか（自由記述）

<用法・用量>

- ・用法・用量を守る（3件）
- ・用量を守る（4件）
- ・時間帯と回数を確認し守る
- ・量や飲む時間
- ・量と時間
- ・1回あたり服用数、薬を飲む間隔、対象年齢
- ・対象年齢
- ・対象年齢や服用量の確認
- ・副作用や年齢にあった摂取量を見る
- ・薬の飲み合わせ
- ・飲み合わせの不安は全て薬局に連絡
- ・飲み過ぎない、2つの薬を飲まない
- ・強い薬しかないときは、あまりつらくないときには服用しない
- ・ドラッグストアの薬は一時的な服用

<効能・効果、副作用情報>

- ・効能を見る
- ・症状と作用が合っているか確認してから飲む
- ・副作用（眠気とかは困る）
- ・副作用にどのようなものがあるか読んでから利用する

<医師の指示、説明書の確認>

- ・病院でもらう薬は言われたとおり服用
- ・注意をよく読んだり、決められた量、決められた服用の仕方をする
- ・袋や入れ物に書いてある薬の説明を全部読む
- ・薬の説明をしっかりと読み、量等の確認をする
- ・説明書をよく読む
- ・説明書を見る
- ・説明を見てから使う
- ・説明をよく見る

<その他>

- ・体に合う製品を作る会社か否か
- ・安全かどうか
- ・管理方法
- ・その薬が本当に自分に合っているものかどうか確認する
- ・水で飲む（2件）

生徒の「薬害」への意識② - 1

授業実施後（静岡県立清水南高等学校）

問1 今回の授業で「薬害」について新たに知ったことは何ですか
(自由記述)

<薬害とは・薬害の影響>

- ・授業前は薬害という言葉すら知らなかったが、授業を通して薬害とは何かやその被害について幅広く知ることができた
- ・薬によって目が見えなくなる可能性があること。死ぬかもしれない。
- ・薬害エイズ以外にも薬害事件があること
- ・副作用には重いものと軽いものがある
- ・薬害によって苦しめられている人がたくさんいるということ
- ・失明などの障害につながることもある
- ・薬害により重い身体障害になること。
- ・薬害の影響でここまで生活に支障が出るとは・・・
- ・薬害の種類、被害者やその家族の生活
- ・想像していたよりも多くの被害が出ていること
- ・薬害が起きている数は少しではないこと
- ・人生を大きく変えてしまう
- ・以前にも失明など大きな障害の被害を受けている人がたくさんいること
- ・被害者の身内も苦労すること
- ・薬害によっていろいろな差別があったことが分かった
- ・薬1つで自分だけでなく家族にも大きな影響が出ること
- ・薬害は様々な障害や病気を引き起こしている。また、差別を受けている被害者も多い
- ・たくさん被害を受けた人がいるということ。最終的には自分でしっかり判断すべきということ。
- ・心理的な問題もあること
- ・心理的な苦痛を味わっていること。まさか職につくのも難しいとは。
- ・薬害の影響は、精神的にも肉体的にも悪影響を及ぼし、家族などにも大きな負担がかかってしまう
- ・視力を失ったり、手足が動かなくなったりして生活が困難になり、自ら命を絶ってしまう人もいることを知った

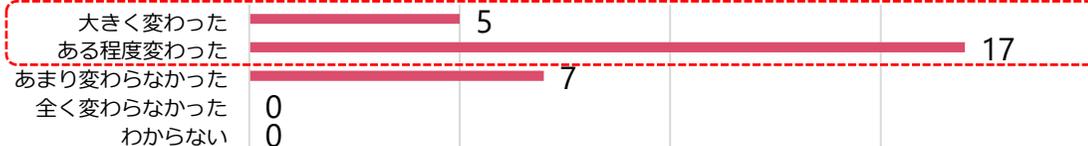
<薬害の原因>

- ・昔は不誠実な対応や対策等で薬害の発生や拡大が起こっていたと分かった
- ・薬害は服用する人の使い方によって起こると思っていたけれど、会社ですぐに問題を認めなかったり、国の規制の弱さによって起こることが多いこと
- ・薬害は個人の問題ではない
- ・法改正前は結構な頻度で薬害が起こっていた
- ・以前あった薬害で、日本が他の国からその薬に毒性があるとされていたのに、対応が遅かったと初めて知った

<教訓と対応>

- ・過去より今は規制を厳しくするなどして対策をちゃんとしていること
- ・薬害をなくすためにしっかりとしたプロセスが作られていること

問2 授業を受ける前と後で、「薬害」に対するあなたの考えは変わりましたか n=29



問3 問2で「大きく変わった」「ある程度変わった」と回答した方にお聞きします。具体的にどのように考えが変わりましたか（自由記述）

<薬害に対する意識>

- ・身体の不健康だけではないこと
- ・被害者のつらさが分かった
- ・体験談を読んで、とてもつらい体験だと思った
- ・軽い副作用のようなものだと思っていたけれど、重い症状もある

<薬害の発生原因への意識>

- ・個人の問題ではなく、社会全体の問題であるということ
- ・症状に苦しむというイメージがあったが、家族も損害を受け、社会や会社にも責任がある
- ・薬害と聞くと、製薬会社のミス、というイメージがあったけれど、他にも国の規制や報道機関など他の様々な要素があって広がるものだと考えを改めた

<薬害を防ぐ方策への意識>

- ・薬害を防ぐために私にもできることがあると知ったから
- ・私たちにもできることはあるとわかったから
- ・薬害は製薬会社や医者だけでなく、国民一人一人も理解して判断していかなければならないということ
- ・命にさえ関わる副作用はなるべく
- ・どうしようもないもののイメージから、治せるんだなというイメージになった

<薬害による個人や社会に対する影響への意識>

- ・熱がちょっと出るくらいだと思っていたが、薬1つで人生が大きく変わってしまうと初めて知った
- ・私が想像するよりもはるかに被害が多く、深刻な社会問題となっているので、一刻も早く対応するべきものだと考えた
- ・今まで薬害が何なのか分かっていなかったもので、こんなに深刻な出来事があったことに驚いた
- ・薬を服用することで害が起こるということにあまりなじみがなかったもので、こんなにも苦しんでいる人が今でもいるということに驚いた
- ・人の生死だけでなく、周りの人の人生にも関わってくると分かった
- ・私が考えていたよりも薬害は人の人生をこわす被害があったとしても少しだけだと思っていたのが、1万人単位での薬害の被害があると知り、絶対に起きてはならないものだと思って考えたから
- ・影響が大きく、ここまで生活に支障が出るとは・・・
- ・被害が大きいこと
- ・被害が拡大してしまうこと

生徒の「薬害」への意識② - 2 授業実施後（静岡県立清水南高等学校）

問4 薬害が起こらない社会にするためには、どのようなことが必要だと考えますか

(自由記述)

<国民・消費者として>

- ・ 厳重にチェックする
- ・ 情報をしっかりと知っておくこと
- ・ 利用者が注意する
- ・ 副作用を知ること、歴史を知ること
- ・ 「副作用なめんなよ」と知らせること
- ・ 医療を信用しすぎない
- ・ 薬は命に関わる物だという意識を全員が持つ
- ・ より多くの人々が薬害を知り、社会全体で取り組むことが必要だと思った
- ・ 薬について大勢の人に知識として広めること
- ・ みんなが薬害について知り、自分の使っている薬について、関心の持つこと

<国・製薬会社・医療機関として>

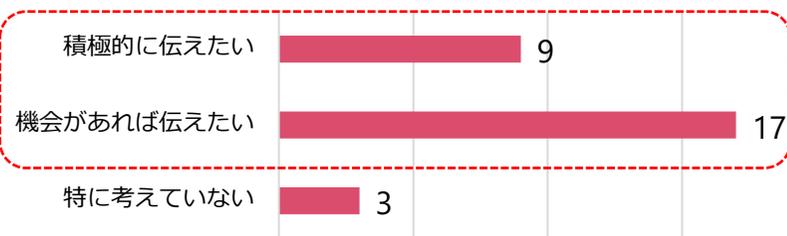
- ・ 国の対応
- ・ 国や会社の責任
- ・ 国や会社がしっかり管理する
- ・ 国や製薬会社で、ちゃんとした安全確認を行う
- ・ 国や医療関係者や国民が一致団結すること
- ・ 行政や製薬会社、医師などが自らの利益ではなく薬の使用者のためを思って活動する
- ・ 規則や政策を改めること
- ・ 製薬会社がしっかり効能について調査すること
- ・ 安全性に配慮できるような社会を作るように広めていくことが必要
- ・ 薬の研究をもっと行う
- ・ 研究を入念に行う
- ・ 試験をしっかりする
- ・ 販売前に薬の安全性を専門家などの意見を踏まえて何度も確認したり、誤情報を広めないようにする
- ・ 治験をしっかり行い安全性を確かめたり、少しでもリスクがある場合は薬剤師が患者に薬のメリット・デメリットを伝えたりすること
- ・ 薬の安全性の情報の開示をすることが大切だと思った
- ・ 薬の作用について情報を公開したり、説明したりする
- ・ 被害が小さくてもそこに目を向けて情報を共有することが必要
- ・ 医薬品の情報を周りに正確に伝えること
- ・ 使用者に十分な説明をする
- ・ 正確な情報提供

問5 消費者として、薬を安全に使うために、どのようなことに注意すべきだと考えますか（2つまで選択可）



問6 授業で学んだことを、周りの人に伝えたいと思いますか

n=29



薬害に関する授業例について【3】

◆実施予定校：国立 東京学芸大学附属高等学校〈東京都〉 高校2年生・公共

【課題】薬害は単なる科学の問題ではなく、資本主義や民主主義と深くむすびついている。それを踏まえて、市民（自分たち）ができること・果たすべきことを考える。

<狙い>

- 第一に薬害問題を知って欲しいという願いがある。しかしできれば、薬害問題を通じて、薬と社会、そして民主主義や個人の尊厳について深く考えてもらうきっかけとしたい。
- 生徒たちは、中学時代にコロナ禍を過ごし、青春を奪われた世代である。実は大人以上に、薬と社会に関しては個人的な考えを持っていることが推察される。若い彼ら・彼女らに、薬害問題を知ることを通じて、その考えをより深めてもらいたい。
- 安全性を高める努力を企業と行政が努めることは当然の上で、それでもなお、リスクのない薬はなく、また科学も万能ではなく、薬害の問題は常にある。国民（市民）側も、安全を深く考えず、薬を早く出して欲しいと願い、薬害を増長させかねない構造がある。
- 薬害を単なる製薬会社の責任に留まらず、社会の問題として捉え、個人ひとりひとりの責任にまで目を向けさせたい。

【授業①（導入）】消費者問題を知ろう

- 契約について知ろう（リトル・マーメイドから考える契約）
- どうして消費者問題が起こるのか考えよう
- ケネディの消費者の4つの権利（安全である権利、知らされる権利、選択できる権利、意見を聞いてもらう権利）を知ろう
- 行政の対策を知ろう

【授業②（展開1）】薬害問題を知ろう

- 薬害の視聴覚教材を視聴し、薬害問題の特徴をつかむ
- スモン、サリドマイドの被害者の声を聞く
- 薬害発生の原因について考察する

➡ ロジックツリーを作成して、原因を分析してみよう

【授業③（展開2）】薬害問題の解決を考えよう

- 作成したロジックツリーを踏まえて、薬害を起こさないために製薬会社や行政、国民が取るべき行動について、提案する
- 次の社会的ジレンマについて考える

「ある製薬会社は、特定の病気に関して非常に有効なワクチンの開発をした。このワクチンが広まることで、病気が劇的に改善されることが予見される。世論ではこのワクチンが待望されており、企業としては他社に先駆けて発表したい。なにより、早く世に出して、この病気について解決させたいと願っている」

➡ 人々が新薬を早くほしがっているとき、自分たちの考えた解決策と照らして、どのようなことが懸念されるか検証しよう